

パブリック・サービス研究分科会 5月例会	
「大学図書館協力の歴史と日本の大学図書館協力の可能性」研究グループ報告書	
日時	2009年5月11日(月) 16時～17時
場所	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス本館4階小会議室
記録	植苗(中央大学)
参加者	塩瀬(女子栄養大学) 中島(桜美林大学) 植苗

### 前回までの進捗状況

当グループでは、国内外の大学図書館(大学図書館⇔公共 or 専門図書館も含む)協力の洗い出しと分析、それをふまえた日本の大学図書館界の特徴の明確化と諸環境に適応した協力の形の提案を目標としている。

4月の段階では、研究の土台となる知識と認識の効率よい共通化のためWeb上の共有フォルダに作成された文献リストと図書館協力年表が一定程度のボリュームに達し、文献の一部と年表の全てがキーワードによってソート可能な状態になっていた。

前回例会では、テーマを絞り込む時期にきていることが確認され、各自で研究の枠組みを構想し4月中に共有フォルダにアップロードすること、またそれらを比較検討して5月例会で今後の方向性を定めることが申し合わせられた。

### 例会当日の作業内容と次回までの課題

研究の枠組みについては、例会前日までに計5案が共有フォルダにアップロードされた。当日は各自が案について改めて簡単な説明を行った後検討に入り、5案中3案に共通していた「共同保存書庫の可能性」について研究を進めていくことで一致した。

すなわち、現在は桜美林・慶應・立教・中央等各大学が各自で行っている保存書庫(乃至は図書館内の保存コーナー)の運営について、大学図書館協力の余地の有無を検討し、可能であればモデルの提示を試みるというものである。研究手法としては国内外の成功・失敗事例の分析や図書館間の蔵書重複率調査が提案されたが、特に研究の大きな軸の一つとなることが予想される蔵書重複率調査については、実現可能かつ有意性のある数値を提示可能な手法や調査対象の選択についてさらに検討を進め、適宜メール及び共有フォルダ上で情報を交換していくことで一致した。

以上